

2016年8月4日
 TYOGA-8-AUG/16

ガルーダ・インドネシア航空

ジャカルタ スカルノ・ハッタ国際空港 新ターミナル (T3U) への移転について

ガルーダ・インドネシア航空会社(本社:ジャカルタ、インドネシア 社長兼最高経営責任者:M.アリフ・ウィボウォ)と、空港運営会社アンガサ プラ 2 は、ジャカルタ スカルノ・ハッタ国際空港(CGK)の新ターミナル『ターミナル3 アルティメット(Terminal 3 Ultimate)(略称:T3U)』の運用開始に伴い、インドネシア運輸省の認可を受け、2016年8月9日(火)より正式運用とする旨を発表いたしました。

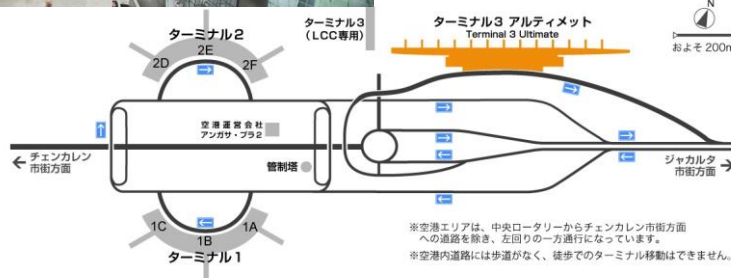
スカルノ・ハッタ国際空港 T3U は、まずガルーダ・インドネシア航空の国内線のみ運航を開始しますが、続けて国際線の運航も開始予定です。

スカルノ・ハッタ国際空港 T3U は、現ジャカルタ スカルノ・ハッタ国際空港の混雑緩和と、お客様へのセキュリティおよびサービスの向上を目的とし建設されたもので、これにより新たに 2500 万人の旅客の対応が可能となります。また新ターミナルは、インドネシア経済の発展と旅行者増への寄与のみならず、ASEAN 地域における国際空港としての役割も期待されています。

ガルーダ・インドネシア航空は、インドネシアのナショナルフラッグキャリアとして、今後もより快適なサービスの提供を通じ、お客様への更なる利便性の向上を目指します。

■ジャカルタ スカルノ・ハッタ国際空港 新ターミナル (T3U) 運用開始日:

2016年8月9日(火)より (ガルーダ・インドネシア航空 国内線のみ運航開始)



■空港運営会社アンガサ プラ 2について

インドネシア西部地域における空港および空港関連サービス業務をおこなう会社。ジャカルタ スカルノ・ハッタ国際空港をはじめ、ジャカルタ ハリム空港やメダンのクアラナム空港など、13の空港を運営。

■ガルーダ・インドネシア航空会社について

会社設立 1949年。日本への運航開始は 1962年3月。2016年3月時点での保有機体数は 192機、平均機体年齢は 4.3年。2016年末までの保有機体数は、ガルーダ・インドネシア航空で 144機、シティリンクで 53機の、合計 197機となる予定。インドネシアの文化や伝統をベースとした、五感で感じるインドネシア「ガルーダ・インドネシア・エクスペリエンス」がサービスコンセプト。日本発着便には日本人客室乗務員が乗務し、快適な空の旅の提供に努めている。2014年、スカイチームに加盟。2014年以降3年連続で「The World's Best Airline Cabin Crew」を受賞している。

<本リリースに関する問い合わせ>

ガルーダ・インドネシア航空 篠

【E-Mail】 tyock@garuda-indonesia.co.jp

<報道関係者からのお問い合わせ先>

ガルーダ・インドネシア航空 PR事務局 木村・齋藤(株式会社サステナブル内)

【E-Mail】 garuda.PR@sustainable.co.jp 【電話】 03-3376-6660